

## 今月の PICK UP

『うつわ』 石村 由起子／著 青幻舎 596.91



本書は、奈良県でカフェと雑貨の店「くるみの木」を営む筆者が、これまで出会ってきた大切な器を美しい写真と文章で紹介しています。始まりは10代の頃、神社の蚤の市で見つけた白い磁器と染付の器…。そこから旅先で出会った中国や韓国の骨董、あこがれの作家や若い作家の作品へと世界が広がっていきます。どの器も「目を喜ばせてきた」一期一会の存在で、写真からその質感や色合い、手仕事の温かさが伝わってきます。ページをめくるたび、いつもの食卓を少しでも大切にしたいくなる、お気に入りの1枚を探しに出かけたいくなる、そんな気持ちをそっと灯してくれるあたたかな1冊です。

『駅から徒歩138億年』 岡田 悠／著 産業編集センター 914.6オ



多摩川の全長は138km、宇宙の歴史は138億年。この不思議な数字の符合から、多摩川の河口から源流までを全部歩くことにした著者による「時間」をテーマにした旅のエッセイ集。17年前に2秒見えた海を探す、古いカーナビの案内で街を歩く、10年後の宿を予約する…。空間と時間を飛び越えた「ここではないどこか」への旅を、どうぞ一緒に。

司書の  
おすすめ

『宮沢賢治の地学読本』 宮沢 賢治／作 柴山 元彦／編 創元社 450ミ

宮沢賢治の作品には、地形や気象についての描写が多数あり、地学の教員だった彼ならではの視点が感じられます。この本では、宮沢賢治の作品を、その文章に出てくる地学用語のわかりやすい解説や写真とともに楽しむことができます。



賢治と同様、地学の教員である編者によるコラムにも、様々な自然科学の内容が紹介されており、地学の世界への興味を誘われます。

『鉄道遺産をめぐる旅』 京都新聞出版センター／文 川端 英登／文

京都新聞出版センター 686.2キ



明治時代以降、鉄道は便利な移動手段として我々の生活を支えてきました。本書は近江鉄道、草津線、叡山電車、柳ヶ瀬線（北陸本線旧線）など、京都・滋賀、その近郊にある鉄道の歴史を、鉄道構造物、切符や時刻表、写真などの貴重な資料とともに紹介しています。当時の人々や風景に思いを馳せながら、鉄道遺産をめぐる旅に出かけてみませんか。

『お繕いのテクニックで作るダーニングブローチ』 野口 光／著 山と溪谷社 594.21

ダーニングとは、イギリスなどヨーロッパで伝統的に行われている衣類の穴あきや擦り切れを修繕する針仕事のこと。そのダーニングの技術を使ってブローチを作ることができます。布、糸、ステッチの組み合わせは自分の好みと感覚でOK！ 布は新しいものでも家の中に眠っている端切れや昔着ていた洋服でもいいです。組み合わせをあれこれ考える時間も楽しいですし、何より思い出がブローチとして形に残ります。

